

日本年金機構の資産管理の在り方に関する会議（第3回）

議事要旨

○日時 平成29年6月5日（月） 13時50分～15時30分

○場所 TKP新橋カンファレンスセンター 4階 ホール4B

○出席者

（議長） 水島理事長

（委員） 明石委員、足立委員、荒牧委員、近江谷委員、川口委員、原委員
日本年金機構、厚生労働省年金局（オブザーバー）

○議事

（1）事務局から資料説明

（2）委員より以下のような発言があった

【宿舎の見直し（存廃）】

- 廃止候補以外の宿舎の分類は「その他」ではなく「宿舎継続」といった表現の方がよいのではないか。事業運営に必要な宿舎を明らかにする必要があり「その他」という表現では誤解を招く可能性がある。
- 試算の方法に違和感はないが、賃貸物件供給状況や家賃相場は経済市況によって変化すると考えられ、20年後の試算の数字は実際には今の想定から乖離したものになると感じる。
- 建物の老朽化対策は、売却資金等の活用も含め、長期的な計画を立てていくべきではないか。
- コスト比較に当たっては補助的に感度分析を行っておいた方がよい。

【宿舎建替のコスト比較】

- 余剰容積率の活用等が可能となるというのはPPP／PFIの特徴の一つと言えるが、この資料（試算）の中では前提の置きようがないので仕方がないと思うが、例えば余剰容積の民間活用などが可能となれば、さらにPPP／PFIは経済上のメリットが出る可能性があるということを書いた方がよい。
- 民間活用のメリットとしては、余剰容積率の活用による機構の負担減が挙げられる。

【年金事務所】

- 現地建替に固執せず、移転建替についても幅広く検討してもらいたい。
- 建替と賃貸の試算結果の格差が大きすぎるように感じる。感度分析を行った方が納得感がある。

（以 上）